

10 千人の体を洗う——光明皇后

1 主 題 博愛、同情 <2-(2)>

2 本時の指導

- (1) ねらい 光明皇后の話を通して、慈愛の精神を学ぶとともに、他の人々に対して思いやりの心をもち、それを行動に移すことの意義を学ぶ。さらに、自分自身にも潜在的にある慈愛の心に気づき実行できることを認識する。

(2) 展 開

	学習活動と主な発問・期待する反応	教師の支援
導 入	1 人からしてもらったことで、嬉しいな、と感じたことはありませんか。 まったく見知らぬ人から、優しくされたことはありませんか。 そのようなときに、どのように感じましたか。	・家庭では？ 学校では？ など具体的な活動に目を向けさせる。 ・見ず知らずの人との間ではどうであろうか、と視野を広げさせる。
A 価 値 の 追 求 ・ 把 握	2 光明皇后を知っていますか。 ※資料「千人の体を洗う——光明皇后」を用意させる。 ※光明皇后とこの資料の、大まかな説明をする。 ・天皇家が何代続いているか。 ・光明皇后はそのうちの第45代、聖武天皇の后。 ・光明皇后は聡明で慈悲深い人物であった。 3 資料を読む。 4 中心発問 皇后は、なぜ施薬院や悲田院を建てたのだろうか。 ◇困っている国民を救いたい。 ◇自分のできることをしてあげたい。 5 皇后は、なぜ老人の体の膿を口で吸い取るという行為ができたのだろうか。 ◇世の中を平和にするために、仏教のめぐみを受けたい。そのためには、仏様のお導きを全うしたい。 ◇すべては、「人のために」という気持ちから。	・天皇家、日本の国が約2600年以上続いているということをおさえておく。 ・その歴史の中には立派な人物がたくさんいるのだが、今日はそのうちの一人(光明皇后)に焦点を当てる。 ・施薬院や悲田院を造るために皇后は、個人の財産を用いたと言われてることを伝える。 ・皇后は、この時代(奈良時代)、混乱した世の中を平和にするのは、仏教の力だと考え、聖武天皇とともに国を治めていた。 ・夢の中での仏のお告げを、忠実に実行する姿に、信仰心と国を想う強い気持ちが感じられる。 ・人間には潜在的に人のために何かしたいという気持ちがあることをおさえる。 ・何かを成し遂げるときに、「人のために……」という気持ちが、苦難を乗り越えさせるということを認識させたい。

B 内 面的 自 覚	6 今の日本は、物質的には恵まれていると言われているが、みんなが幸せを感じているだろうか。周りの人を幸せにするために自分ができることはないだろうか。 ◇バスの中でお年寄りに席を譲る。 ◇友達に優しい言葉をかける。 ◇困っている人の手伝いをする。	・家庭、学校、地域、日本の中、世界の中で、自分ができることをワークシートに書きあげていく。世の中の一員であることに気づき、自分自身ができることを行っていくという意識を高める。
終 末	7 何人かの人に、上記の内容について発表してもらおう。資料の後半部分(p.80)を読み、社会での福祉の取り組みに目を向けさせる。	・教師の話聞き、これからの世の中を平和にしていけるためにも、自分の行動が大切であることを自覚させる。